

議論をお願いしたい点

	項目	内容
1	最良推定負債 期待現在価値計算	<ul style="list-style-type: none"> ・期待現在価値計算にあたって、原則として確率加重期待現在価値計算が求められる。 ・しかし、一般に死亡率、発生率等、継続率等についてはなんらかの標準的な分布が定まっているものでもないのではないか。(欧州もわが国も) ・確率的シナリオの採用が全保険にわたって必ずしも必須というものでもないのではないか。保険種類の性質に応じて、重点の置き場所が異なり(金利感応度の強弱等)、簡便計算の余地が大きいのではないか。 ・また、各種のパラメータの更新頻度についても議論したい。
2	評価利率	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクフリーレートを基準とすべきと考えるが、対応資産の予想リターンを反映することは完全に排除すべきか。 ・運用成果還元型保険における将来リターンと評価利率の評価・設定のありかた。
3	資本コスト法の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・資本コスト法の採用によって、以下のような影響が考えられるが、この点についてどのように考えるか。 ・リスクマージンは、保険料に含まれる安全割増に比べて相対的に低い水準になる。このことをどう解釈すべきか。 ・この結果、仮に配当負債を計上しないとすると、初年度に大きな利益を計上することになる。こうした初年度利益をどう解釈すべきか。

* 網掛けの項目は、特に議論の優先度が高いと思われる項目です。

4	配当負債の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の配当（とりわけ利差益配当）は、どのような前提のもとで算出するのか。 ・ IAIS は広範囲の配当負債計上を認めているが、IASB はより厳格に負債認定する予定と聞いている。 ・ 負債として認められるためには、より厳格な配当の事前確定性を高める必要があり、このことは本来の有配当制度の制約になりうる懸念があるが、どう考えるか。 ・ 資本中に持たざるを得ない場合は、他の資本と性格の異なるものとなる。こうしたメザニンの位置づけを是認する必要があると思うがどうか。
5	負債評価額変動額の認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべて損益計算書反映と考えて良いか。 <p>評価利率の変動に伴う部分は、包括利益と認識する考え方もあるように思われるが、こうした考え方をどう評価するか。</p>

以上